

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」教育、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」教育を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、社会参加に必要な力を育み、目的を持って豊かな生活を送ることができる人材を育成する。

2 中期的目標

1 エンパワメントスクールの教育内容の充実

P D C Aサイクルで組織的に取り組む。

ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを実施し、必要に応じて修正を加えながら行う。

イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う。

学校教育自己診断において、「モジュール授業に関する項目」の肯定的な意見を令和4年度には75%とする。(R1 72.7% H30 63.4% H29 72.6%)
「エンパワメントタイムに関する項目」の肯定的な意見を令和4年度には70%とする。(R1 64.0% H30 55.7% H29 56.4%)

ウ 4つの系列科目の内容の充実

学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を令和3年度には80%とする。(R1 70.1% H30 64.1% H29 57.8%)

2 3つの力(新たな自分を創造する力、人間関係を大切にできる力、社会に貢献する力)を育む。

(1) 学習活動の充実

ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する。また、そのための環境整備を行う。グループ学習、少人数展開授業、公開授業、新しい教育機器活用等を通して授業力を向上させ、令和2年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.20以上にする。<R2 3.20、R3 3.20、R4 3.20> (R1年度 3.18 H30 3.19 H29 3.12) また、授業アンケート「生徒意識1」及び「生徒意識2」の平均値3.0以上を維持する。(R1年度 3.11 3.13 H30年度 3.08、3.10 H29年度 3.01、3.01)

イ 令和2年度入学生より新しくなった系列(マリンアドベンチャー、アクティブIT、ソーシャルケア、ワールドトラベラー)の構築を図るとともに、従来の4つの系列(海洋、情報、福祉保育スポーツ、英語国際)の内容も充実させる。

ウ 特色ある学校設定の授業を開講する。

(2) 特別活動の充実

体育祭、文化祭、地域と連携する山海人プロジェクト等の全員参加型行事、地域活動等の希望参加型行事を実施する。

令和2年度においても全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後アンケートにおける肯定意見70%以上を維持する。また、文化祭事後アンケートを70%以上にする。<H31 65%、R2 70%、R3 70%> 国際交流、地域活動等の希望者参加型行事の事後アンケート等ふりかえりにおける肯定意見80%以上を維持する。

(3) キャリア教育の充実

ア 個々の生徒の状況に応じた支援を行う「寄り添う」、多角的なアプローチによる支援を行う「粘り強い」生徒指導の実践

学校教育自己診断における「高校にはいろいろななきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を60%以上にする。(R1年度 59.3% H30年度 52.8% H29年度 50.7%)

イ 人権教育の推進

学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を50%にする。(R1年度 62.5% H30年度 52.5% H29年度 47.2%)

ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援

学校教育自己診断における「エンパワメントタイムは将来、社会人として生きていくための力がつく授業だと思う。」の肯定的意見について50%以上を維持し、令和4年度において60%以上にする。(R1年度 64.0% H30年度 55.7% H29年度 56.4%)とする。

エ 望ましい職業観の育成と進路実現

系統的なキャリア教育により、自尊感情を育成し卒業時における進路未決定者を10人以下にする。(R1年度卒業生のうち未決定者8人)

オ 国際感覚の育成

海外研修の実施等、国際交流の推進を図る。

(4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実

ア 高校生活支援カードの活用促進のため、カードを活用した個別の教育支援計画の作成、ケース会議の開催等、障がいの有無にかかわらず困り感のある生徒の支援を行う。(高校生活支援カードの提出100%を維持)

イ 授業のユニバーサルデザイン化により基礎的環境整備を図る。

令和2年度において、授業アンケート「授業展開」の平均値を4段階中3.20以上にする。<R1 3.18、R2 3.20、R3 3.20>

ウ LHR や総合的な学習の時間を活用して、互いに違いを認め合い、共に生きる集団づくりを図る活動を実施する。

学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が十分に行われている」を50%にする。(R1年度 62.5% H30年度 52.5% H29年度 47.2%)

エ 支援教育体制の整備

多様な学び方に対応するための環境整備等の取組みにより、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する。

(5) 通級指導教室の充実

ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る。

3 人材の育成と管理

ア 教員全体の資質向上のため、外部講師を招聘し授業改善、組織運営を中心に、支援教育、教育相談、人権問題、社会人教育など、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。ミドルリーダーや外部講師による教員研修を年間10回実施する。

イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化を図る。

4 地域連携と広報活動

ア 地域の小中学校への、点字等の本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する。

イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する。参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する。

ウ 学校の取組みを発信する

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパワメントスクールの教育内容の充実	PDC Aサイクルで組織的に取り組む ア 国社数理英の基礎科目及びエンパワメントタイムについて、担当者を中心に定期的に振り返りを行う イ 他のエンパワメントスクールとの情報共有を行う ウ 系列科目の内容の充実	ア 担当者を中心に、振り返りの会議を定期的開催する また、次年度以降の選択科目等について、生徒の状況を踏まえた修正を行う イ 教育庁主催の会議等に担当者が出席し、情報収集するとともに、職員会議等においてフィードバックする ウ 定期考査ごとに、生徒の振り返りを行う	ア 学校教育自己診断において、「モジュール授業がよくわかる」「『エンパワメントタイム』に関する項目」の肯定的な意見の割合をそれぞれ70%、50%以上を維持するとともに、75%、70%に近づける（R1年度 72.7% 64.0% H30年度 63.9%、55.7%） イ 授業アンケートの全ての項目において、3.1以上とする ウ 学校教育自己診断において、「系列に関する項目」の肯定的な意見を70%とする（R1 70.1% H30 64.1%）	
2(1) 学習活動の充実	ア 「わかる」「楽しい」を体験することで、自尊感情を高め、生徒が主体的に参加し、自ら学び、考える力を養成する イ 4つのコース(海洋 情報 福祉保育スポーツ、英語国際)の内容を生徒にとって、より魅力的なものにする ウ 特色ある学校設定の授業を開講	ア 学習環境を整え学習目標を明示して授業を始める 身近な教材を取り上げ生徒の興味関心を引く。メリハリ・テンポ・リズムのある授業を心がける 考える・説明を聞く・黒板を写すなどを明確に分ける 具体的にほめるといふ5項目の内容を教員が目標とする 授業力向上のためのプロジェクトを結成し、校内全体の取組を進める 生徒が自主的に学習できる環境整備や取組を行う イ 各コースで従前と異なる取組を検討する ウ 地域資源や環境を活用した魅力的な授業を開講	ア 生徒向け授業アンケート「授業展開」の項目において、全生徒の評価の平均が4段階中3.18とする（R1年度 3.18 H30年度 3.17） また、授業アンケート「生徒意識1」「生徒意識2」の平均が3.0以上を維持する（R1年度 3.11 3.13 H30年度 3.08、3.09） イ 各コースで新しい取組を1つ以上行う ウ 新たに1つ以上の講座を開講	
2(2) 特別種別の充実	体育祭、文化祭、山海人プロジェクト等の全員参加型行事、国際交流、地域活動等の希望参加型行事を実施	様々な行事の企画運営に、生徒会や希望生徒を参加させ、生徒が興味関心を持って取り組めるよう工夫する 山海人プロジェクトの内容について、雨天時のプログラム等を検討する 広報誌等に活動を掲載してもらうなど、地域等への発信について検討する	・全員参加型行事の山海人プロジェクト、体育祭の事後のアンケートにおける肯定意見70%以上を維持するとともに、文化祭では、60%とする ・希望者参加型行事の事後アンケート等振り返りにおける肯定意見を80%以上にする ・広報誌などへの掲載回数1回以上	
2(3) キャリア教育の充実	ア 「寄り添う」「粘り強い」生徒指導の実践 イ 人権教育の推進 ウ コミュニケーション能力の育成と人間関係構築への支援 エ 望ましい職業観の育成と進路実現 オ 国際感覚の育成	ア 多様な生徒の状況に応じた生徒支援について学校運営協議会で聞く イ LHR や総合的な学習の時間に、権課題について学び、考える機会を設け、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする ウ エンパワメントタイムの内容を他学年のLHR や総合的な学習の時間で実施する エ 1年次から進路実現を目標としたHR を計画し、講演や施設見学などを実施し、職業観の育成に努める オ 海外との交流を実施し、交流内容の充実を図る	ア 生徒のマナーについての学校運営協議会の意見を校外での生徒指導に反映させ、通学路等での指導を継続。自尊感情の観点を取り入れ、生徒向け学校教育自己診断における「高校にはいろいろなきまりがあって厳しいけれど、自分のためになっていると思う」の肯定的な意見を60%以上にする（R1年度 59.3% H30年度 52.8%） イ・ウ 生徒向け学校教育自己診断における「人権を大切にするための学習が行われている。」を50%以上にする（R1年度 62.5% H30年度 52.5%） エ 卒業時における進路未決定者を10人以下にする オ これまで訪問したことがない国との交流を行う	
2(4) インクルーシブ教育に向けた取組みの充実	ア 高校生活支援カードの活用 イ 授業のユニバーサルデザイン化 ウ 共に生きる集団づくりを図る活動を実施する エ 支援教育体制の充実	ア 入学時に新入生全員に作成し、生徒の状況を年度当初に共有 配慮等が必要な生徒に対して、個別の教育支援計画を作成 イ 支援教育の観点により、2(1)の授業づくりに取り組む ウ LHR や総合的な学習の時間に、様々な人権課題について学び、考える機会を設けたり、人間関係を築く基本的なスキルを身に付けるためのグループワークを行ったりする（再掲） エ 多様な学び方に対応するための環境整備等の取組により、生徒の自尊感情を高めることで、中途退学や不登校を防止する	ア 高校生活支援カードの提出100%を維持 必要な生徒に個別の教育支援計画を作成 イ・ウ 2(3)イ・ウと同じ エ 生徒が自分の得意な学び方が「わかる」機会として、地域連携を活用した活動等を年に5回以上開催する	
2(5) 通級指導教室の充実	ア 先駆的な取組みや環境整備により、入級生徒の自尊感情の育成を図る	ア 入級生徒に対して、自尊感情を評価するためのアンケートを実施 自立活動において、先駆的な取組を行う 通級指導室の環境整備を行う	ア 学期等の区切り毎にアンケートを実施し自尊感情の変化を把握する 地域連携による先駆的な取組を行う 特性に応じた環境整備を行う	

府立岬高等学校

3 人材の育成と管理	ア 教員研修の充実 イ 働き方改革の推進	ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善、組織運営を中心とする研修を行う イ 業務の効率化を図る	ア ミドルリーダーや外部講師等による教員研修を年間5回実施する イ 働き方改革の一環として、会議等の効率化と委員会等の統合を図る	
4 地域連携と広報活動	ア 地域の小学校への点字等本校の特色を活かした出前授業や、車いす体験ボランティアなどを継続する イ 地域の人たちから学ぶ場を継続的に確保する ウ 学校の取組みを発信していく	ア 取組みを継続する イ 参加依頼のある岬町内のつつじ祭り、教育フェスタ等の地域行事に生徒会や部活動、有志が参加する ウ 特色ある取組みの広報を行う	ア 取組みを継続する イ 参加依頼のある地域行事に生徒会や部活動、有志が1団体以上参加する ウ 通級指導教室の成果の共有と発信を行う	